

タイあるある(後編)

筆者は 2023 年1月より仕事の関係で年に数回タイのバンコクに出張しています。
1990 年代インドネシア(ジャカルタ)駐在時に公私の所用で数度タイ/バンコクに赴きましたが、以来機会は無く、実に四半世紀ぶりのバンコク訪問となった訳です。

1993 年のジャカルタ赴任時、同年代の職場の仲間がバンコクに赴任しました。
ASEAN の優等生、シンガポールとマレーシアに続く成長株と目されたインドネシアとタイの現地営業を強化するのが狙いでした。

以来四半期世紀以上を経過、タイの現状が分かるにつれて、インドネシアに随分と差をつけたなと感じる一方、将来をどう見据えているのか不透明さも感じます。
ともあれ、難しい話をする機会をもっと訪問・勉強してからに譲ることとして、まずは「タイあるある」を紹介してみたいと思います。



あるあるその3:「仏教が暮らしに根付いている」

タイは国民の95%が仏教徒の仏教国です。深い敬愛の対象たる国王も仏教徒で憲法で「宗教の保護者」と定められています。
南方ルートで伝来した上座部仏教徒(小乗仏教)で、寺院への参拝、冠婚葬祭やビジネス上の儀式など、仏教は国民の生活に浸透しています。

寺院は金箔や鮮やかな色使いのタイルでおおわれており、本尊の仏像も金色、大変華やかなものです。仏教国ミャンマーの寺院の金色に彩られていますが多様な色は使われておらず、タイの寺院は華やかさで際立っています。

観光名所の一つであるワット・ポーやワット・プラケオなども、地元民や地方から訪れた普通の人々で平日から賑わっています。人々は卵などを備え、恩恵を受けるべく仏像に貼られた金箔を触ります。
大きな寺院ではネパール人やミャンマー人の寺院も併設しており、タイに滞在する同国人が参じています。

タイではその人が生まれた曜日によって「守護仏」や「シンボルカラー」が決まっています。本人にとって冠婚葬祭の日どり、勝負服の色などを決めるなど重要な意味を持ちます。（因みに筆者は土曜日なので、背後の7本頭の蛇に保護され瞑想する座像、カラーは紫でした。）

バンコクのオフィスビル、高層マンションなど、フロント前に小さな寺院が必ずといってよいほど設けられており、草花や食物がお供えされています。日本の地鎮祭や上棟式と同じく、建物建設時に儀式が催され、居住の安全を祈るべくそのまま残されているとのこと。

〈所感〉

仏像といえば日本で目にすることの多い大仏像の穏やかな顔、如来像などの理知的な顔を思い浮かべますが、タイの仏像は顔が少し細かったり、伏し目がちだったり、我々の知る仏像の顔とは少し違っています。顔以外も（上記に曜日毎の釈迦像につきお伝えしましたが）座る・寝る等その姿勢、左右の手の場所と向き、背後の蛇など、様々な様態になっています。さらにネパールやミャンマーの仏像の顔かたちも少しずつ違ったりもします。

あるあるその4:「宅配が大流行している」

タイのEC市場は急成長、1兆バーツ(4.6兆円)を超える市場規模となっており、Lazada、Shopee、Tik Tok Shopがその担い手となっています。（因みに日本の市場規模は24.8兆円(2023年)です。）Lazadaは中国アリババグループの手掛ける事業で本社はシンガポール、Shopeeはシンガポール発、Tik Tok Shopは中国発といずれもアジア発。ファンが限定的なAmazonは大苦戦しています。

食品宅配アプリはコロナ禍を機に爆発的に成長、1,000億バーツ(4,600億円)を超えており、Grab、Foodpanda、LINE MANが人気です。（日本の市場規模は2.5兆円(2022年)です。）Grabはマレーシア発（本社は現在シンガポール）、Foodpanda、はシンガポール発（現在はドイツのDelivery Hero傘下）、LINE MANはタイ発（日本のLINE傘下）とこちらもアジア発です。配車アプリで始まり2021年にUberの東南アジアを吸収、米NASDAQに上場したGrabに追いつけ追い越せと、Foodpanda、LINE MANも加盟店舗数、アプリサービス内容で競争を仕掛けています。

タイの高層マンションの入り口、ロックのかかったドアの外に箱や飲食物の入ったビニール袋がおかれた長テーブルを良く見かけます。いわば宅配ボックス（閉じていませんが）でバイクに乗った若者が宅配で頼んだ物品や飲食物を置いていきます。到着10分前、到着時にアプリで通知が入るので、程なく受け取る人がマンションから出てきてピックアップする仕組みです。雨に備えビニール袋の中に入っているのです。

筆者も知人宅を訪問した際にランチにGrab Foodを利用、アプリで定番のガパオライスを注文、雨の日のお昼時でしたが40分待ちで温いランチをいただきました。

〈所感〉

Grab Foodのアプリはタイ語・英語併用、ガパオライスを例にとると、ご飯の量と種類、辛さ加減、トッピングなどが選べる、利用しやすいものになっています。この「辛さ加減」なのですが、「辛くない」「幼稚園生」「小学生」「中高生」「大学生」「大人」とレベルが分かれています。筆者は元来辛いもの好きで、ガパオなのだから少しは辛くないと、でも警戒しないと、等と思いめぐらし、最終的に「幼稚園生」を選びました。到着したガパオライスは美味しいのですが、

辛いなのなの。。。コンビニで買ってきたサラダで辛さを中和しながら完食しましたが、暫くは胃がうずいている感じでした。

辛いもの好きのタイ人の味覚を舐めて失敗した、良い経験となりました。

(了)